

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300091
法人名	株式会社 廣島屋
事業所名	グループホーム 愛
所在地	四国中央市土居町上野乙156-2
自己評価作成日	平成22年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープンして1年不足ですが、地域との交流も少しずつできてきました。今年は、全スタッフで昨年を振り返っていい点は更に伸ばし、改善すべき点は改善して行きます。またスタッフのスキルアップの為に積極的に研修等に参加して行きます。入居者の方々の笑顔が一杯溢れるように全スタッフが一生懸命取り組んで行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設1年目であるため、初めての自己評価であるが、その中で事業所の課題を見据え、積極的に取り組もうとしている。管理者は、ホームの名前でもある「愛」にこだわり、笑顔と思いやりのある介護を目指している。若い職員は、仕事のおもしろさを実感しており充実した毎日を送っている。「ベテランの職員から学ぶことは多い」と話し、スキルアップが期待できる。利用者に愛を提供し、利用者が毎日笑顔で生活できるケアを大切にしたいと運営者をはじめ、管理者、職員がケアの質向上に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム 愛
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	馬越 朱美
評価完了日	平成22年2月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の人達より数多くの暖かい支援を頂きながら地域と共に歩んでいけるグループホームを意識し、利用者の笑顔がより多く見られるケアに努力している。</p> <p>(外部評価) 管理者を中心に全職員が、日々の利用者との関わりに「愛」を忘れないケアを心がけ、笑顔と思いをやりを持って接している。利用者の穏やかな表情等から安心して生活を送っていることが伺え、ホームの理念が実践できていることがわかる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の活動に進んで参加している。お隣の保育園行事にも協力しています。近隣の人達も季節の野菜を持って、事業所の様子を見に立ち寄ってくださる。</p> <p>(外部評価) 開設以前から事業所の敷地を地域の方にゲートボール場として長く提供しており、関係作りができています。望まれてこの場所にホームを開設しており、地域からの期待は大きい。隣接して保育所があり日常的に交流する機会や医療学院の学生の訪問もあり、地域との交流を積極的に取り組んでいる。</p>	代表者、管理者、職員の専門的な知識を活かし、地域福祉の拠点としての役割を担い、日常的な交流を地域貢献も意識しながら、さらに積極的に地域に働きかけることを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の研修、会合には進んで関わる努力をし、認知症ケアの向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では地域とのかかわりの指導をしてくださり、防火訓練では利用者の安全を守る取り組みを協議しました。	
			(外部評価) 代表者はグループホーム連絡会等で得た情報を参考に地域の方に積極的に働きかけ、多様な立場の方の出席を得ている。参加者との意見交換も活発に行われている。また、そこでの意見はスタッフ会議でも話し合われ検討されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所の実情を訴え、相談事項の対応を願った。	
			(外部評価) 利用者の困難事例についても市に報告、相談し協力関係が築けている。運営推進会議に包括支援センターの所長が毎回出席し情報交換している。また、毎月介護相談員を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員が身体束縛について理解しており、ベット柵をする、玄関チャイム等 リスクを考えて行っている事であり、家族の了解をえている。	
			(外部評価) 玄関にセンサーはあるが施錠はしていないため、職員の見守り連携にて対応している。また、行方不明時の捜索手順等マニュアルを作成することについても事例を挙げて運営推進会議の中で話し合わせ取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は当グループホームにあってはならない事と捉え把握していつている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 今のところ制度を利用している利用者はいないが、これからのことも考え、対応できるよう学んで行くべきだと思う。資格取得の為の勉強で終わるのではなく、生かしていくべきである。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間をとり必ず施設長・管理者が行っている。書類上では分かりにくい点も、口頭で説明することにより理解・納得が得られるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の参加や、それ以外の時でも利用者や家族の意見・要望があれば検討、可能な限り実行している。  (外部評価) 管理者、職員は、行事や面会時に和やかな雰囲気の中で家族と交流し意見や要望を聞くことができるよう取り組んでいる。また、家族の代表にも運営推進会議に出席してもらい、ホームの運営に関すること等も検討してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ミーティングにより意見や提案出来る場を設けている。又それ以外でもその都度管理者が職員の意見を聞く姿勢であり、良い意見や提案があれば採用している。</p> <p>(外部評価) 薬の配置や、変換マットの購入等、職員で話し合われたことが管理者を介し代表者に提案できるようになっている。代表者、管理者も話し易い雰囲気作りに努めている。全員で良いホームにしていくんだという意識が強い。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 施設長が努力・実績を把握し、職場環境も良くなるよう管理者は常に職員の意見を聞き改善に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 本人に合った研修や本人の希望する研修に参加出来る機会を設けており、それに応じて勤務の調整も行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修の参加や他のグループホームとの交流の機会もあり、良い刺激となっている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 担当者を決め、担当者中心にケアプランを考え馴染みの関係作りに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込み時に必ず見学していただき、入居が決まればご家族にアセスメントシートの記入をお願いしている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談を受けた時は、緊急の場合他のグループホームや施設の紹介、居宅支援事業所への引き継ぎを行っている。入居が決まれば本人の出来る事、分かる事を確かめ、本人、家族の希望に沿い支援出来る事を相談していく。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生経験豊富な人から教わる事は多く、職員の知識も広がり、お互い感謝や尊敬の気持ちを持って接するように努めている。一緒に楽しんだり笑ったり過ごす事が出来ている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 今までの介護の苦勞を共有出来るように情報交換を行い今後も共に支えて行けるように努めている。又、先入観を持たず支援出来るように努めている。家族が訪れやすい雰囲気作りに心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴を把握して、馴染みの人が訪問しやすい雰囲気作りに努めている。市内でも遠い所から入居された方は困難な場合がある。  (外部評価) 面会や見学の時間制限を設けず、誰でも何時でも都合のいい時に来てもらえるようにしている。また、地域の方の協力も得て、利用者、家族合同のレクリエーションも企画し利用者と家族の交流、利用者の家族同士の交流、ホームと地域の交流にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性や身体状況を考慮し不穏な雰囲気になりそうときは、かかわり方で回避できるよう気を使い、良い関係が築けるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に移られる時には出来る限りの情報提供を行い、入院で退所される時は病状が落ち着いたら再入所の相談を受ける事もある。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) お話をよく聞き職員間で情報の間共有を行い、意見交換しながら、家族の意向も取り入れる。  (外部評価) 日々の関わりの中で、利用者に寄り添って話しかけるように努めている。利用者や家族から聞いた新しい情報はミーティングや申し送りで口頭にて情報交換している。また、毎月の介護相談員からの利用者の要望、相談の報告書も受け取っている。	入居時のアセスメントは丁寧に聞き取り記録されている。しかし、新しく得た情報が管理者、職員全員の共有した情報としての記録があまりなされていないため今後、利用者の意向に沿ったサービスにつなげるためにも、記録の充実を図ることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活歴すべてを把握することは出来ないが、家族ならびに多方面から情報提供をお願いし、職員間で情報を共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日一人一人の生活のリズムを把握できるように努めている。個別の出来る事を活かせる機会を増やしたい。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族、職員、医療関係者などに意見を求め方向性を考えている。まだ、十分でないと思われる。	
			(外部評価) 気付きノートや申し送りノートに日々気が付いたことは記録して現状把握をしている。ミーティングの時に話し合った内容を介護支援専門員が評価し、介護計画を作っているが、実施状況の記録が十分とは言えない。	介護計画の実施状況を記録することで、利用者の現状が把握できるため、実施状況を記録し継続的にサービスを提供することができるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 記録は詳細にするよう努め把握は出来ているものの、深い分析は今後の課題である。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の希望に沿い、通院や外出の支援をすることもある。介護保険で出来ないサービスはボランティアで行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方々の支援でミカン狩り、老人会、神社などにでかけたりする機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医は、利用者や家族の希望に沿い、往診で の体制を整えている。</p> <p>(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続して利用している方が多 い。通院は基本的には家族が付き添っている。通院時 に近況の体調変化を家族に情報提供し、医師に報告し てもらっている。通院後の状況報告を受け、服薬の処 方箋等も把握している。季節性インフルエンザの予防 接種は利用者、職員全員受け感染予防に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職の配置や訪問看護職との契約がないので、かか りつけ医と相談しながら一人一人の健康管理や医療支 援につなげるよう努める。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中は病状の把握が出来るように見舞ったり家族へ の問い合わせを行っている。事業所内での対応可能な 段階でなるべく早く退院できるようアプローチしてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医療職不在の愛で出来る事を今後本人や家族の意向を 踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した 最期が迎えられるように取り組む努力をする。</p> <p>(外部評価) 代表者も今現在はまだ具体的にどこまで看ることが可 能か模索中である。医療が必要な状態になった場合は 家族と病院との話し合いを重視している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故、ヒヤリハット報告を徹底し、事故防止に努め、急変時の対処方法、救命救急法等の学習や訓練の勉強会を予定している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力で避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を行う。これらの訓練は定期的に行う計画です。  (外部評価) 運営推進会議でも何回か議題にあげ避難訓練や消火訓練について意見、要望等検討し、消防署立会いの訓練後の報告も行い課題について話し合っている。スプリンクラーは既に設置されており、注意指摘事項についてはスタッフ会議にて検討し全職員に徹底できるよう取り組んでいる。	年2回の火災訓練の実施とは別に、利用者が安全で安心できる生活を送れるように、毎月のホーム独自の防災訓練の実施の取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員が利用者に向けて発している言葉の内容や、語調が利用者の尊厳と権利を損ねないよう常に取り組んでいる。  (外部評価) 職員は研修に参加し「待つこと」「見守ること」「一呼吸置くこと」を介護の中で意識することを学び、日々実践している。また、理念である「思いやり」「尊敬」を全員で共有し実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の話を聞き状況を見極め希望に沿えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の勤務人数や、利用者の方の体調などを考えた上で、出来るだけ希望を聞き、個別ケアや外出などしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時や入浴後整容の声かけ、介助をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒に出来ないが、旬の野菜と地元の野菜を使用し、食卓を楽しく、季節感を味わってもらおうとしている。  (外部評価) 重度の利用者が多いため食事の介助や見守りが必要であり、職員と一緒に食事を摂ることは難しい。楽しい食事を提供できるように、利用者にリクエストしてもらっている。また、朝食をパンにしたり、カレーの日を作ったり、小鉢で種類を多くしたり、彩を考えたりと、食べやすく食欲がわく工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの体調により、その日の摂取量を調整している。また定期的に水分補給の声かけ、介助を心がけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声かけ、介助を行う。又毎夜、義歯消毒をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターン表を作成し、必ず印を付けている。一人ひとり把握し、声かけに心かけている。	
			(外部評価) 利用者全員、昼間はトイレ誘導、夜間は利用者の状態に合わせてトイレ誘導、パットの交換、ポータブルトイレ等で排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 定期的に排便があるようにオリジナルゼリーを飲用していただく。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回一人ひとりが入浴出来るよう心がけている。また、タイミングにより声かけを行い、無理に勧めない。	
			(外部評価) 車いすの利用者が多い。介助が必要な利用者にはリフトもあるが、現在はいすを使用してのシャワー浴を行っている。浴槽に取り付ける手すり等も設置され、浴室も脱衣室も広く安全に介助できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 休息している時には、無理に何かを求めない。この時間には何があるかを習慣づけていただき、楽しみを持って頂く。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 定期の処方時には必ず薬剤情報を頂き、職員は、申し送りにより明確にしている。また、少しの変化でも、かかりつけ医師に上申し指示をあおぐ。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日中のレクリエーションや、他者との調和を図るよう心がける。また、無理に行わないように注意する。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の方々との交流は難しいが、体調を見ながら外出できるよう支援している。家族への協力のお願ひも積極的に行っている。	
			(外部評価) 裏庭が広く遊歩道を作っており、車いすを押して午前中に戸外に出るように支援している。大型スーパーに買い物に出かけたり、近くの池を散策したりと定期的に利用者の気分転換を図れるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布を所持・使用するのは難しいです。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある時は、職員が支援し電話をかけていただいている。手紙は出来るかたに関して、体調や状態をみながら声かけし、促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 温度計、湿度計を利用し快適に過ごしていただけるよう配慮している。また、季節を感じて頂けるよう環境を整えている。</p> <p>(外部評価) 食堂、廊下は広く車いすの利用者も自由に移動することができる。居間は畳でコタツが置いてあり季節を感じることはできるが、現在はコタツの場所を利用する方はいなくて残念だと管理者が言う。食堂の窓から遊歩道のある山が見えて居心地が良い。玄関には季節を感じさせる飾り付けがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ご自分の行きたい場所に行っていただきゆっくり穏やかに過ごして頂けるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人や家族の写真を掲示したり、植物を置いたり、家から馴染みのある道具を持ってきていただいている。</p> <p>(外部評価) 各部屋に押入れがあり整理整頓され居室は広く使用できる。ベッド、カーテンはホームの備品であるが、他のものは各自が自由に持ち込むことができ、利用者の居心地のよい空間が整備されている。必要に応じて車いすやポータブルトイレ使用することができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの出来る事を把握、理解し、コミュニケーションをとりながら支援している。</p>	